

2011/6/24

宮城県医療支援チーム（Bチーム）派遣報告書

派遣先：宮城県石巻圏合同救護チーム（石巻赤十字病院内災害救護本部）

派遣期間：平成23年6月19日（日）～6月24日（金）

派遣人員：消化器内科	医師	塩谷 淳
循環器内科	医師	木村 紀遵
集中治療部	看護師	井出 康介
5D病棟	看護師	芝田 暖子
薬剤部	薬剤師	谷本 絵里子
医療サービス課		奥村 龍雄



支援概要

本支援は、国立大学協会及び国立大学附属病院長会議からの要請を受けて始まった。国立大学附属病院が各地区単位でチームを組みリレー方式で支援を行うことにより、それぞれの大学病院の負担を軽減することで、中長期に渡っての支援活動が可能となる。

各大学は、宮城県石巻圏合同救護チームを編成し、活動拠点の石巻赤十字病院内災害救護本部へ派遣している。

今回、我々近畿地区大学チーム（大阪大学、京都大学、滋賀医科大学、福井大学）の主たる活動地域は宮城県石巻市大街道地区であり、今回の災害でも特に多くの被害を受けた地域のひとつである。当該地区の避難所を担当し巡回して診療活動を行い、被災地域の復興に資する医療支援活動を行うものである。

支援方針

我々の訪問した6月下旬（発災後3カ月）時点で、約22万人の石巻医療圏では、全体として医療面での復旧は進んでいた。石巻合同救護チームが巡回している避難所は、発災当初の313か所から約90か所（総避難者数は41990名から約4000名）にまで減少していた。既に避難所近隣の開業医や病院が95%まで再開されてきており、基本的に地元地域で医療行為が完結するというのが石巻合同救護チーム本部の方針である。避難所住民への過度の医療支援により、依存が強くなる前に住民の自立に向けての支援縮小が必要であるとのことであった。具体的には、救護チームの訪問頻度、数を減少させる段階であり、チーム数は7月より14チームから4チームに縮小することが決定した。

活動報告

上記の方針に基づいて、大街道地区の4診療所（釜会館、ひたかみ園、釜小学校、大街道小学校）を巡回した。実際の活動として、地域医療機関受診までのつなぎとしての医療

行為が主であった。慢性疾患で急を要さない場合は紹介状の作成、地域医療機関までの処方が必要な場合は基本的に院外処方を発行した。



6月20日 釜会館



6月21日 ひたかみ園



6月22日 釜小学校



6月23日 大街道小学校

感想

我々が訪問した時点では、想像していたよりも支援チームに対する実際の医療ニーズは低く、今後どのような規模で、いつまで継続するかなどを改めて議論する必要があると感じた。

しかし、我々個人としては、被災地を訪れて被災地の状況を目の当たりにし、被災者の方々や他の支援チームと密接に関わることから得た経験は、今後医療を行っていく上で、貴重なものとなったと確信している。